令和6年能登半島地震における救護班コーディネートチーム第2班の活動報告

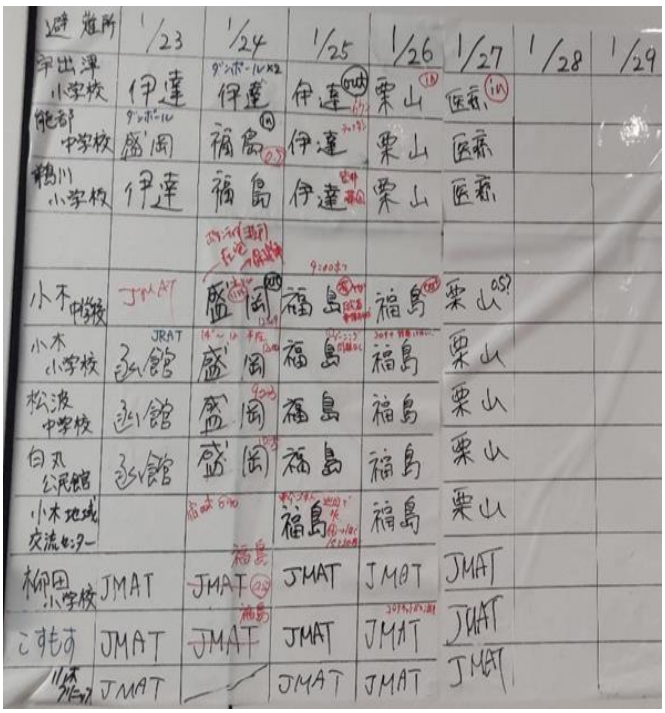
活動期間：2024年1月23日（火）～1月27日（土）
活動場所：能登町役場内 能登町保健医療福祉調整本部
活動人員：災害医療コーディネーター　高槻赤十字病院 医師1名
　　コーディネートスタッフ　　大阪赤十字病院 事務職員1名・看護師1名
背景など：2024年1月1日16時10分発災の石川県能登半島地震によって、甚大な被害がもたらされた。発災直後から石川県保健医療調整本部を筆頭に、日本赤十字社石川県支部の災害対策本部、災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）等が協働し、多団体と連携・調整しながら指揮統制がとられ、日本赤十字社救護班、災害派遣チーム（DMAT）、災害派遣精神医療チーム（DPAT）等、各組織団体による医療救護活動が展開されていた。
活動目的：石川県能登北部保健所・中部保健所管轄の各市町村における医療救護活動の連携及び救護班の活動調整を行う。
活動概要：日赤災害医療大阪府支部コーディネートチーム第2班として、能登町保健医療福祉調整本部でコーディネート業務を行った。
能登町は人口 15.000 人、豊かな自然に囲まれ第一次産業が盛んな地域である。柳田地区・内浦地区・能都地区の3つのエリアに区分けされ、発災から3週間が経過した1月22日時点での避難者数はおよそ1400人、広域・準広域・自主避難所すべて合わせると56か所の避難所が開設されていた。そのうち医療ニーズのある10か所の指定避難所への巡回診療を日本赤十字社救護班が担っており、この巡回診療がスムーズに行われるよう救護班の派遣先采配・調整と活動方針の伝達を行った。大雪の影響で活動困難となったJMAT本部（穴水市拠点）との連携、JMAT 担当避難所等の調整も行い、支援継続できるように介入した。他にも能登町で活動する日赤救護班員（第 1 ブロック北海道・東北エリアから派遣受援）の宿泊所の運営管理等も行った。
また、コーディネート業務に加えてコーディネートチームの看護師 1 名が日赤救護班に帯同し、避難所に導入する段ボールベッド事前説明会及び段ボールベッド導入後の被災者による評価や、避難所の環境アセスメント、医療ニーズ・感染症動向、心のケアニーズの把握といった現地調査も実施した。救護班の活動状況報告と現地調査をふまえ、能登町の避難所における医療ニーズ把握と救護班の必要数を検討するとともに、日赤災害医療コーディネートチーム後方支援会議での情報共有や、能登町以外の地域における救護活動状況の把握も行った。能登町保健医療調整本部会議・DHEAT会議にも参加し、地元保健師・DMAT・DPAT・JMAT・JDAT・JRAT といった多団体と協働しながら日本赤十字社の救護活動方針の発信・共有を行った。そして、次のコーディネートチームが多団体と連携しな

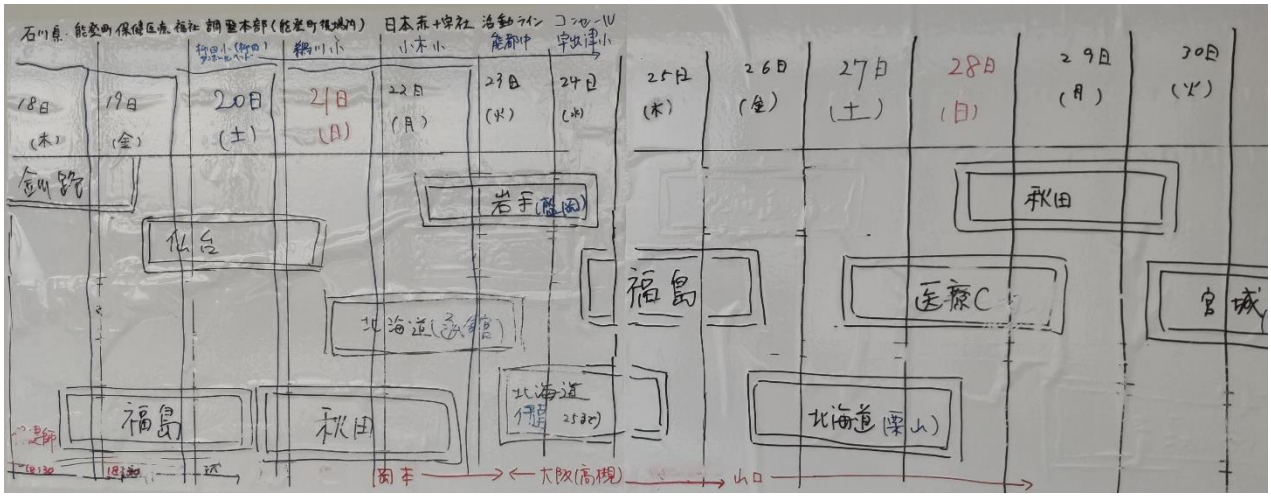
がら滞りなく活動できるよう引継ぎを行い、日本赤十字社石川県支部災害対策本部に業務完遂の報告をもって活動を終了した。

被害に遭われた方々の一刻も早い御快復と被災地の早期復興を切に願っています。

<業務調整・報告書作成などの作業>

< 避難所と救護班のマッチング >



< 救護班員へのブリーフィング >

< 能登町　日赤災害医療コーディネートチーム・救護班の IN/OUT スケジュール　>